

I. メイクフレンズ活動の実施報告

メイクフレンズについて

全国国立大学教育学部において文部科学省が推進しているフレンドシップ事業は、さまざまな体験活動を子どもたちと学生がともに行い、ふれあう中で学生が子どもたちの気持ちや行動を理解し、実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとしています。

メイクフレンズは、このフレンドシップ事業の一環として行われた、熊本大学教育学部の授業から発展した学生主体の活動です。メイクフレンズでは、学生である私たちが活動を企画し、そしてその活動を実践したり、そこでの体験を振り返り見直したりすることによって、「子どもを見る目」及び「子どもの考えや行動を予測した企画」のレベルを向上させることを目的としています。現在、活動の場として、五福・中央公民館、託麻公民館、大江公民館、東部公民館、花園公民館などの社会教育施設にご協力いただき、企画・運営を含めた大学外での体験活動を行っています。

2019（令和元）年度メイクフレンズ活動体系について

熊本大学教育学部2年 砂原文恵

本年度は熊本市の6つの公民館と提携させて頂き、5班構成で活動を行ってきた。前年度の流れを引き継ぎ、年間を通して特定の子どもたちと共に活動の企画・運営をするプランナー班、学生が主体となって企画・活動をする単発班、ホール班として活動を行った。

本年度は方針を、「各班が“子どものためのよりよい活動づくり”を行うための土台となるもの」と捉え、「つなげる しんかする」を掲げた。現在メイクフレンズには約90名の学生が所属している。大きな組織であるメイクフレンズにおいて、以前の活動の改善点など次の活動になかなか活かせていない現状があると考えた。そのため活動後の振り返りに焦点を当て、活動間や世代間のつながりを大切にしたいという思いから「つなげる」という言葉を用いた。また、子ども理解を深めてほしいという思いから“深化する”、子ども理解を深めたうえでよりよい活動づくりを行ってほしいという思いから“進化する”というふたつの意味を込めて「しんかする」という言葉を用いた。この方針をもとに、子どもが楽しいと感じる活動を作っていくと共に、学生にとっても実り多いものにしていきたい。

メイクフレンズは来年度で21年目を迎える。本年度も公民館をはじめ、様々な場所でのキャンプや風流街ロマンフェスタ、子ども会でのレクリエーションの実施など、外部の方からも多くの依頼を頂いた。様々な人との関わりに支えられているこのメイクフレンズを誇りに思うとともに、この活動と組織のさらなる発展・充実のため、来年度も新たな挑戦をしていく。

最後になりましたが、本年度も公民館の先生方をはじめ、市や県の先生方、そして中山先生、長濱先生、甲山先生をはじめとする教育学部の先生方には、多大なご理解とご支援を頂きました。私たち学生は多くの方々に支えられて、メイクフレンズという場で貴重な経験ができています。心から感謝申し上げます。これからもご理解とご支援をよろしくお願い致します。

「つなげる、しんかする」

○方針とは？

私たち19代は、18代に引き続き、方針を「1年間メイフレ全体がどうあるべきかの行動指針」と捉えた。そこで、メイフレ全体がどうあるべきかを考えていくと、“子どものためのよりよい活動作り”を行い、子ども理解を目指すべきであるという答えに辿り着いた。“子どものためのよりよい活動”とは、過去の振り返りが活かされた、子どもが楽しいと感じるものであると考えた。

19代において方針とは、「各班が“子どものためのよりよい活動づくり”を行うための土台となるもの」であるとし、以下のように方針を定めた。

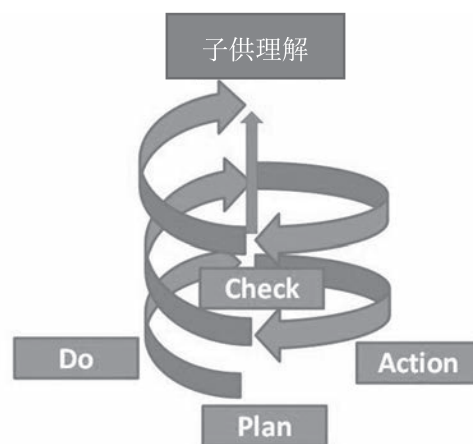
○「つなげる、しんかする」とは？

メイフレの活動を行っていく中で19代が大切にしたいと考えたのは、**活動間、つまりは世代間のつながり**である。現在のメイフレの活動は、活動がやりっぱなしになってしまっていることも少なくない。また、振り返り会の資料など振り返り会終了後に見返すことは少ない印象を受ける。そのため、前回以前の活動の改善点など次の活動になかなか活かせていない現状がある。よって、活動間や世代間のつながりを意識して話し合いを行っていくことで、よりよい活動づくりができ、活動後の反省会や振り返り会などがより効果的なものになると考えている。

活動間や世代間をつなげるためにPDCAサイクル(Plan:計画、Do:実践、Check:振り返り、Action:行動)を意識して行うことが重要であると考えた。また、PDCAサイクルを重ねることによりよい活動にすることが必要である。その具体的な取り組みについては後に説明する。このように活動間や世代間のつながりを大切にしたいという思いから「つなげる」とし、また、PDCAサイクルを繰り返し行うことで、子ども理解を深めてほしいという思いから“深化する”、加えて子ども理解を深めたうえでよりよい活動づくりを行ってほしいという思いから“進化する”というふたつの意味を込めて「しんかする」とした。

○具体的な取り組みについて

Check(振り返り)として、個人の振り返りを班全体で共有する時間を取り、Action(改善)として、One Noteを利用してこれまでのメイフレの活動のデータを保存する。活動のデータを保存することで、話し合いで行き詰まった時や過去の活動に照らし合わせて考えたい時などに参考にすることが出来る。残したデータを見ることにより、過去の活動についても具体的に知ることが出来る。残したデータを考えが深まる前に見ることで、考え方がテンプレート化してしまう恐れもあるが、自分たちの活動で何を大切にしたいのか(目的や見たい姿)などを確定させてから見ることで必要な情報だけを確認することができ、同じような活動の繰り返しは避けられるはずである。過去の支援のメリット・デメリットや過去に起こったトラブルへの対処法など予め知っておくことで、よりよい活動づくりにつなげることが出来る。



以上の事より、「つなげる、しんかする」を踏まえて、取り組みたいことは以下の通りである。

【Plan(計画)】

- ・話し合いに参加する
- ・子どもの姿をイメージしながら話し合いを行う
- ・活動に向けて過去の活動のデータを参考にする
- ・共有を読む

【Do(実践)】

- ・活動に参加する
- ・活動では、目的・見たい姿・支援などを意識しながら、実践する
- ・子どもの反応に着目する

【Check(振り返り)】

- ・活動後に参加した学生で振り返りを行う
- ・振り返りシートを提出する
- ・個人の振り返りを班全員で共有する時間を取る
- ・振り返り会に出席する

【Action(改善)】

- ・OneNoteにデータを保存する
 - ・残して、次のPDCAサイクルの改善につなげる
 - ・振り返り会の論題で話し合っただけの意見を班で吟味する時間を取る
プランナーは活動間に余裕があれば時間を取る(閉講式以降に必ず年間目標を確認する時間をとる)
- ※OneNoteに関しては別紙参照

○最後に

私たち19代は、子どものためのよりよい活動づくりを行うことが重要であると考え、方針を立てた。しかし、船員それぞれにメイクフレンズへかけられる時間や思いに差がある中、全員が同じだけの熱意をもって取り組むことは困難である。その状況でも、船員一人一人がメイクフレンズの活動を楽しみつつ、活動を行う中で、何か得るものがあったらいいと考えている。

私たち19代が中心となるこの1年で、19代だけでなく船員全員で、メイクフレンズをよりよいものにしていきたいと思っている。

2019年度 メイクフレンズ年間活動一覧

月	日	秋津東部単発班	中央単発班	五福ホール班	大江プランナー班	託麻プランナー班
6月	1日(土)					開講式
	8日(土)			めざせ! 世界一の自動車工場		
	9日(日)				開講式	
	16日(日)	はじめての おかいもの 令和最初の ピザ職人になるのは 誰だ!? ～崖っぷちピザ職人 からのSOS～ In 秋津公民館			プランナー会議①	
	22日(土)					合宿
	23日(日)					
	29日(土)					プランナー会議①
	30日(日)	はじめての おかいもの 令和最初の ピザ職人になるのは 誰だ!?			プランナー会議①	

		〜崖っぷちピザ職人からの SOS〜 In 東部公民館						
7月	13日 (土)			仲直り大作戦 〜おりひめの愛を とりもどせ!〜	合信 (プランナー会議②)	プランナー会議②		
	14日 (日)							
	20日 (土)					プランナー会議③		
	21日 (日)				プランナー会議③			
	28日 (日)				プレ		プレ	
	3日 (土)							
	4日 (日)					夏祭り		
11日 (日)							たくまつり	
24日 (土)				みんなであくわく 夏祭り				
8月	25日 (日)	星いっぱい プラネタリウム 秘密基地計画!! In 秋津公民館						
	31日 (土)	星いっぱい プラネタリウム 秘密基地計画!! In 東部公民館	力を合わせて 魔王を倒せ! 〜ヒーローを救える のは君たちだ〜				プランナー会議①	
9月	1日 (日)				プランナー会議①			

	7日 (土)					プランナー会議②
	8日 (日)				プランナー会議②	
	15日 (日)				プランナー会議③	
	21日 (土)					プランナー会議③
	29日 (日)				プレ	
	6日 (日)					プレ
	12日 (土)			ちぎってペタペタ 飾りつけ 〜ハロウィンを 盛り上げよう〜		
10月	13日 (日)				モンブランラン 一緒に作らん!?	
	20日 (日)					いも星人を うならせろ! 最高の カップケーキ作り!
	27日 (日)				プランナー会議①	
	2日 (土)					プランナー会議①
	9日 (土)					プランナー会議②
11月	10日 (日)			風流街 ロマンフェスタ	プランナー会議②	
	17日 (日)				プランナー会議③	
	23日 (土)					プランナー会議③
12月	1日 (日)				プレ	
						はじめての

									プレ
	8日(日)	はじめの おかいもの 東部 冬のパン祭り							
	14日(土)				サンタ王に おれはなる サンタリンピック 2019				
	15日(日)						サンサンサンタの ウォークラリー		
	19日(日)						閉講式		
	21日(土)					お疲れサンタに サブライズ! 〜手作りツリーで お出迎え〜			
	22日(日)								これで君も サンタさん!? 〜みんなで作るメイク クリスマス!〜
1月	18日(土)				おいでよ!				

	19日(日)								閉講式
	1日(土)								閉講式
	2日(日)	ウォークラリー de DANDAN ダンス In 秋津							
2月	9日(日)	ウォークラリー de DANDAN ダンス In 東部	巻いて飾って 寿司祭り！ ～オリジナル 動物園の できあがり～						
	15日(土)						福はうち！ 鬼もうち！ ～チヨキチヨキ 鬼のお面づくり～		

2019年度 メイクフレンズ外部依頼による活動一覧

活動日	依頼主	活動場所	行事名
4月6日	月出3町内子ども会	月出小学校体育館	新入生歓迎会
4月7日	薄場町子ども会	薄場公民館	新1年生歓迎会
4月21日	室園子ども会	室園公民館	新入生歓迎会
5月12日	田迎西2町内子ども会	田迎公民館	お見知り会
	大江小16町内子ども会	大江小体育館	お見知り会
	託麻西4町内下子ども会	託麻西小体育館	子ども会歓迎会
6月2日	黒髪18町内子ども会	竜南中体育館	新入生歓迎会
6月15日	附属小学校四学年	附属小学校体育館	大学生とドッジボール
6月22日	弓削小学校一学年	弓削小学校体育館	学年レクリエーション
8月3日～ 4日	熊本市キャンプ協会	尾ノ上小学校	防災キャンプ
10月26日～ 27日	西部公民館	西部公民館	熊本市西区公民館 3館合同宿泊講座
11月10日	東町3町内会	東町小学校体育館	お楽しみ会
12月14日	託麻東小校区1町内 子ども会	託麻東小学校体育館	託麻東第一町内子ども会 クリスマス交流会
12月21日	楡木1町内子ども会	楡木小学校体育館	クリスマス会
2月16日	熊本市キャンプ協会	琴平木町沿道	熊本城マラソン
2月22日	熊本市キャンプ協会	フードパル熊本	熊本県キャンプ協会 設立40周年事業 ニュースポーツ体験会

2019年度 前期秋津東部単発班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 黒田 力

前期秋津東部単発班では、6月に「はじめてのおかいもの 令和最初のピザ職人になるのは誰だ！？～崖っぷちピザ屋からのSOS～」、8月に「星いっぱいプラネタリウム秘密基地計画！！」の2つの活動を行った。

6月の活動は、子どもたち一人ひとりの力を合わせて自慢のピザを作ってほしいという思いのもと活動を企画した。その上で、話し合いでは「一人ひとりが意見を出しみんなで決める」姿、お買い物では「自分たちで自然と話し合っで決める」姿、調理では「教えあう」姿、発表では「自信を持って自慢する」姿を目指した。実際に、話し合いやお買い物では、ピザのデザインをパズルにしたり、食材の吟味を行うポイントを提示したりすることで、パズルを用いてピザの食材の配置や量をみんなで考えたり、値段や量ではなく、吟味のポイントを基にみんなで食材選びをしたりする姿が見られた。調理では、班員に別々の工程を教えるというジグソー法を用いることで、子どもたち自身が進んで調理方法を教えあう姿が見られた。発表では、上手くいって自慢したい工程や、班の友達の良かったところを書く欄を発表シートに取り入れたことで、いきいきと発表する姿が見られた。

8月の活動は、自分のこだわりを持って、創作に夢中になってほしいという思いのもと活動を企画した。活動の前半に行った話し合いでは「存分に想像を広げる」姿を目指した。実際に、テーマに沿ったブレインストーミングを行ったり、動植物や星座の図鑑を置いておいたりすることで、プラネタリウムのデザイン案をたくさん出す様子が見られた。活動の後半に行った工作では「イメージしたものを工夫して表現する」姿を目指した。実際に、技法のサンプルを提示したり、素材ごとの特徴や使用例を示したりすることで、どのようにして自分がイメージしたものを表現しようかと試行錯誤する様子が見られた。工作後にホールを暗くしてプラネタリウムの観賞を行った際は、保護者の方々を含め大きな盛り上がりが見られ、自分たちの班の作品だけでなく他の班の作品も楽しむ様子が見られた。

前期班長を経験して、子どもたちにどういった経験や学び、気づきをしてもらいたいかを考えた上で、支援を立てていくことの奥深さを実感した。同じ活動を東部と秋津にて2回させていただける中で、1回目の活動での反省点を2回目の活動に直接活かすことができたため、より充実した活動となった。この経験を今後の子どもへの支援を考える上でしっかりと活用したい。



2019年度 後期秋津東部単発班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

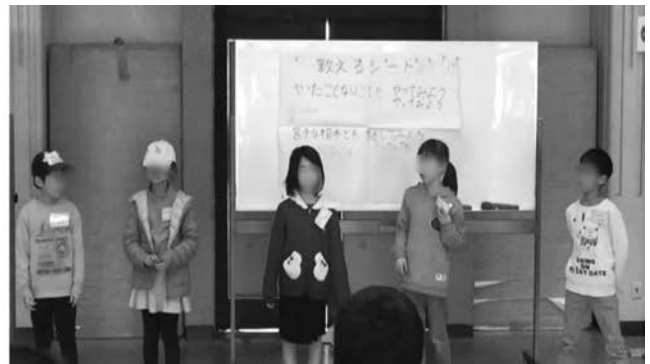
班長 2年 平 井 美 羽

後期秋津東部単発班では、12月に「はじめてのおかいもの～冬のパン祭り～」、2月に「Wow Wow ウォークラリー de DANDAN ダンス」の2つの活動を行った。

12月の活動は、子どもたちが、何気なく食べているものに注目して「探求心」をもち、新しい視点から見てほしいという思いのもと活動を企画した。その上で、午前中の話し合いでは「材料を想像し、意見を交わす」姿、午後の調理では「好奇心を持って調理する」姿を目指した。実際に、話し合いでは実物のパンを用意することで、パンの表面をよく観察したり触ってみたり、匂ってみたりして、見た目や感触、においの特徴からパンの材料を想像する姿が見られた。調理ではあえてレシピを提示せずに、各工程の初めにその工程を終えた状態の写真のみを示すことで、どのような調理操作を行えばよいか予想し、一つ一つの工程に注目して調理を進めていく姿が見られた。また、発酵させたパンと発酵させなかったパンを食べ比べることで発酵の仕組みや役割に興味を持っていた。一から作ってみることを通して、何気なく食べているパンについて材料や作り方といった普段であれば注目しない視点から考えている姿を見ることができた。

2月の活動は、子どもたちに班内だけでなく、他の班の子どもたちとも関わってほしいという思いのもと活動を企画した。前半は班内で仲良くなること、他の班の人と関わることの抵抗感を和らげることを目的としたゲームから成るウォークラリーを行った。後半は他の班の子どもたちと関わることを目的にウォークラリーで得たダンスを他の班に教える時間を設けた。またペアダンスや全員で一緒に踊るダンスを取り入れたダンスパーティーも行った。実際に前半では、自分の班だけではクリアできないゲームをする際に他の班が持っているアイテムが気になって見に行く姿や、他の班と協力する姿を見ることができた。また、ウォークラリーが進むにつれて他の班と協力することに積極的になっていく姿も見られた。後半のダンスの教え合いでは、教え方やダンスの掛け声を班で考え、他の班に工夫して教える姿が見られた。また、ダンスを踊る時には教えてもらった掛け声を使ってみんなで声を合わせて踊っている姿も見られた。活動全体を通して子どもたちは、あくまで学生が用意した支援に沿って関わっており、主体的に関わる姿はあまり見られなかった。支援を行いつつも子どもたちの主体性を引き出すことの難しさを感じた。

後期班長を経験して、子どもの姿を予想しながら支援を考えることの大切さを感じた。昨年に引き続き、同じ活動を2回させていただいたので、1回目の活動で行った支援の結果見られた子どもの姿をもとに2回目の活動に向けてより良い支援を考えることができた。より多くの子どもの姿を見ることができた経験をいかして支援の幅を広げたい。



2019年度 秋津東部単発班 活動報告

前期班長 黒田力
後期班長 平井美羽

本年度の活動方法

秋津公民館

活動

振り返り
改善

1、2週間

東部公民館

活動

前期活動

6月

“はじめてのおかいもの”

「令和最初のピザ職人になるのは誰だ!?
～崖っぷちピザ屋からのSOS～」

8月

「星いっぱいプラネタリウム
秘密基地計画!!」

目的

一人ひとりの力を合わせて
自慢のピザを作ろう!!

話し合い:「一人一人が意見を出しみんなで決める姿」

お買い物:「自分たちで自然と話し合って決める姿」

調理:「教えあう姿」

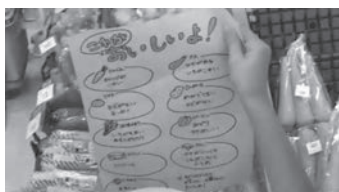
自慢大会

子どもたちが主体となって 買い物をするための支援

▶ 食材吟味シートの提示

→ 食材の精選

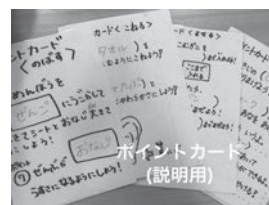
シートをもとに食材を吟味



調理で教え合いをするための支援

▶ ジグソー法の利用

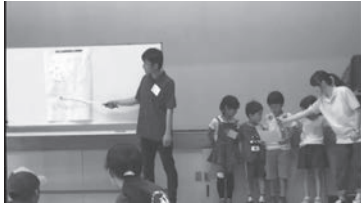
→ 各工程でのコツを班の人に教える



自信を持って発表するための支援

自慢大会の開催

→前段階に食べ比べを行うことで
自班のピザの良いところを発表



ムービー

- ①吟味しながら具材を選ぶ姿
- ②ピザ作りで頑張りたいことを
宣言する姿
- ③子どもたち同士が教え合う姿

活動を通して

- ▶体調不良の子どもが出てしまった
→いただきますの時間の遅延

公民館ごとの綿密な時間構成

後期活動

12月「はじめてのおかいもの
～秋津・東部冬のパン祭り～」

2月「WowWow ウォークラリー
de DanDan ダンス」

「いつも食べている」パン

パンは
何から作られて
いるんだろう

探求心

パンは
どうやって作られて
いるんだろう

材料

作り方

何気なく食べているもの

新しい見方

目的

理想に近づけるために考え、
実際にやってみることを通して、
食の新しい見方に気づく

話し合い: 材料を想像しながら、意見を交わす姿

買い物: 自信を持って買う姿

調理: 好奇心を持って調理する姿

「材料を想像する」ための支援

▶ 実物のパン

観察する、嗅ぐ、触る

→見た目、におい、感触の特徴をもとに
材料を想像する姿



パンのにおいを
嗅ぐ様子

「好奇心をもって調理をする」ための支援

▶ 各工程の初めに

その工程を終えた状態の写真を提示



始めの写真



終わりの写真



「好奇心をもって調理をする」ための支援

▶ 各工程の初めに

その工程を終えた状態の写真を提示

→具体的な調理操作を予想する姿



発酵についての説明

発酵の仕組みについてのパネルシアター

→発酵の役割や仕組みに興味を持つ姿

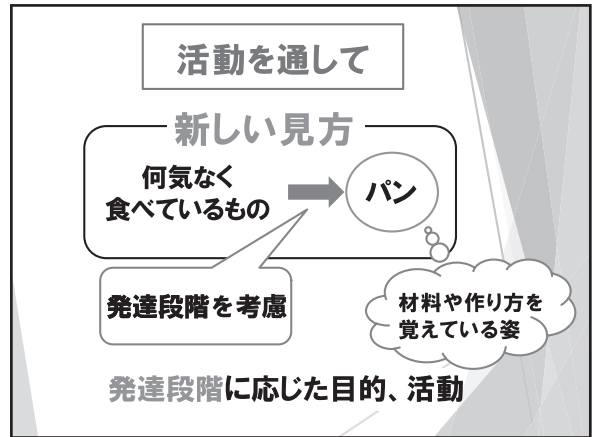
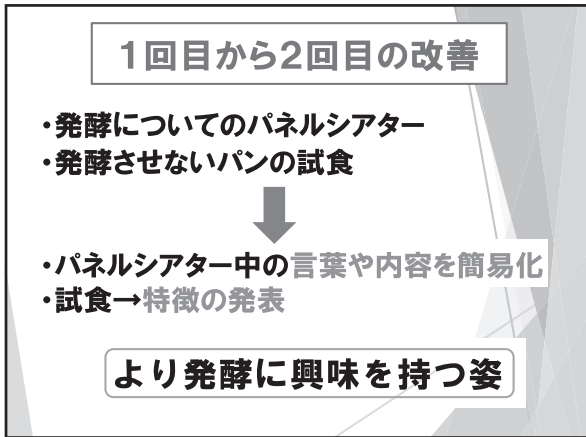


ムービー

①においや感触から

材料を想像する姿

②写真を見て調理操作を予想する姿



2019年度 前期中央単発班 活動報告書

〈前期の活動を振り返って〉

班長 2年 平田 宜江

前期中央単発班では、8月に「力を合わせて魔王を倒せ！～ヒーローを救えるのは君たちだ～」の活動を中央公民館で行った。

この活動の内容は、ある町を救うために全員で協力して各ミッションをクリアし、魔王を倒すというものである。ここでは、「ミッションを通して、積極的に関わり合い、協力の輪を広げよう」を目的として立て、この目的は、勝敗にこだわらず、参加児童全員が仲良くなってほしい、ゲームクリアを目指して、試行錯誤しつつ意見を交わしてほしいという2つの思いをもとに設定した。そこで、目的を達成するために、主に2つの支援を行った。1つ目は、多くのミッションを用意し、班員の構成をミッションごとに変えることで、班という枠組みを超え、参加児童全員が関わり合うことの出来る機会を設けた。また、参加児童間での仲間意識を持たせられるように、学生側を敵役にする支援を行った。2つ目に、様々な難易度のミッションを数多く設け、作戦を立てやすくするためにポジションのような役割を決める際に選択肢を提示するなどの支援を行った。この2つの支援の結果より、1つ目に対しては、参加児童が積極的に関わり合い、意見を交わす場面が、2つ目に対しては、全体の勝利に向けて真剣に作戦を立てる場面が見られた。

全体を通して振り返ると、企画段階では、班の構成をミッションごとに変えることで、通常の活動に比べて子ども間の関わりが広がるだけでなく、希薄になるのではないかと考えたことも考えられた。しかし、“参加児童全員で魔王を倒す”という共通のゴールを立てて、班の枠組みを取り払ったことで、試行錯誤しながら協力する姿が見られる良い活動を作ることが出来たと思う。

前期での活動は8月の一度のみであった。しかし、この一度の活動を通して、班員の学生と連携することの重要性、子どもの立場に立って、支援や企画を考えることの難しさを改めて実感することが出来た。この経験を今後活かして、よりよい活動作りを行っていききたい。



2019年度 後期中央単発班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 平田 成美

後期中央単発班では、12月に「お疲れサンタにサプライズ！～手作りツリーでお出迎え～」の活動を、2月に「巻いて飾って寿司祭り！～オリジナル動物園のできあがり～」の活動を中央公民館で行った。

12月の活動では、「関わり合いを通して、高め合おう」を目的として立て、サンタに向けて、お礼のクリスマスツリーを作るという工作活動を行った。子どもたち同士が「高め合い」を行うために必要なことを段階的に考え、それに対する支援を用意した。初めに、高め合う準備として一人一人がこだわりを持ったアイデアを出せるように、1人ずつに付箋を配り自由に自分の考えを書かせた。次に、班内でそのアイデアを共有し、ツリーのデザインに何を取り入れていくのかを決める話し合いを行った。その中で「それいいね！」というような声があがる場面があり、班内で高め合いをする姿が見られた。さらに、相手の班のアイデアを参考にして自分の班の作品をより良くすることができるように、実際に工作を行っている途中に自分の班の作品の良い所や工夫した所を発表する時間を設けた。この発表では、相手の班の作品で気になる所を質問する姿が見られた。このように、班内における関わり合いだけでなく、班を超えた関わり合いを通して高め合うことができていた。完成したツリーにも高め合った結果が表れていた。

2月の活動では、「創意工夫を凝らして、オリジナルの巻き寿司を作ろう」を目的として立て、動物の顔の巻き寿司を作るという調理活動を行った。この活動では、目的にある創意工夫の「創意」という部分を、「新しいものを生み出す」というように設定した。これに対しての支援としては、普通の動物のデザインではなく新しい動物のデザインを生み出せるように、丸形だけではなく四角形や三角形の顔も作るようにした。また、「工夫」という部分は、「自分が描いたデザインをどんな具材を使うとうまく表現できるのかを考える」というように設定した。これに対しての支援としては、自由に具材の色や特徴を考えながらデザインを表現できるように、具材シートだけではなくスーパーの広告も用意した。巻き寿司の完成時には子どもから歓声があがり、笑顔で食べることができていた。

後期班長として2つの活動を企画・運営していく中で、意見をまとめる力や改善点を見つけ出す力を身に着けることができた。この経験を、メイクフレンズの活動だけでなく、様々な教育活動の場で活かしていきたいと思う。



2019年度 中央単発班 活動報告

前期班長 平田 宜江
後期班長 平田 成美

前期活動

〈8月〉

力を合わせて魔王を倒せ！
～ヒーローを救えるのは君たちだ～

目的について

- ①勝敗にこだわらず、
子ども全員がそれぞれ仲良くなること
- ②ゲームクリアを目指して、
試行錯誤しつつ意見を交わすこと

ミッションを通して積極的に関わり合い
協力の輪を広げよう

支援①

班構成の
組み替え

+

共通のゴールの
設置



子ども全員が積極的に関わり合い
意見を交わす姿

支援②

ミッション

様々な難易度

+

話し合い

選択肢の提示



全体の勝利に向けて真剣に作戦を立てる姿

ムービー

《私は誰でしょう》

【話し合いの場面】

- ・自分の考えを他者に対して
伝えようとする姿
- ・考えを聞いて、考え、納得する姿

ムービー
《アルティメット》

【ポジション選びの場面】

・選択肢から一番守りやすい形か
意見を交わしながら選ぶ姿

活動を振り返って

子ども同士での関わり合いではなく、
子どもと学生の関わり合い

⇒子ども同士の関わりが大切

↓

子どもと子どもを繋げる支援

後期活動

〈12月〉
お疲れサンタにサプライズ！
～手作りツリーでお出迎え～

〈2月〉
巻いて飾って寿司祭り！
～オリジナル動物園のできあがり～

目的について

高め合い

↑

共有する
話し合う
教え合う

↑

1人1人が
こだわりを持つ 他人の良い所に
気付く

支援①

1人ずつに
付箋を配る

自由に
アイデア
を書く

↓共有

他人の良い所に気付く
↓
班内での高め合い

支援②

【発表した内容】

- ・ツリーのテーマ
- ・工夫した所
- ・工作しているときに難しかった所

気になる所を
質問する姿

良い所を
取り入れる姿

ムービー①

〈話し合い〉

- ・配られた付箋に自分のアイデアを自由に記入する姿

ムービー②

〈発表〉

- ・自分の班のツリーについて発表する姿
- ・相手の発表を聞いて気になった所を質問する姿

活動を通して

- ★子どもたちの様々な意見をまとめていくことの難しさ
- ★子どもたち同士で積極的に関わり合う姿を見ることができる喜び

子どもたちの力を最大限に引き出せるような支援

ご清聴ありがとうございました



2019年度 前期五福ホール班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 砂 原文 恵

本年度の五福ホール班では初めて来る子ども、来たことがある子ども楽しんでもらえるように、『居場所作り』という年間目標のもと、前期では、6月に「めざせ！世界一の自動車工場」、7月に「仲直り大作戦～おりひめの愛を取り戻せ！～」、8月に「みんなでわくわく夏祭り」の3つの活動を行った。ここでは、8月の活動を報告する。

この活動では「心ゆくまでとことん楽しもう」という目的のもと企画・運営した。

活動では、射的、輪投げ、魚釣り、お面作りの4つのブースを設け、子どもたちが自由に興味のあるブースに参加できるようにした。また、何度もブースに挑戦してほしいという思いから支援としてスタンプカードを用意し、ブースを回るごとにスタンプがもらえ、最後にその数に応じてくじを引けるようにした。

各ブースの支援として、射的ブースでは異なる距離を設定して難易度を選択できるようにしたことで、より高い難易度を選択し、的を倒して喜んだり、倒せず悔しがって何度も挑戦したりする姿が見られた。また、輪投げ、魚釣りブースではランキング表を設置し、子どもたちはランキング表を意識して、他の子、また以前出した自分の点数を越えようとする姿が見られた。お面作りブースでは見本のお面を準備し、それを実際に学生がつけることで、それらを参考にし、イメージ通りのお面を作る姿や、完成したお面を頭につける姿が見られた。

この活動の子どもの様子を振り返ると、同じブースに挑戦したり、違うブースを回ったりして、最後まで楽しんで活動に参加していた。また、スタンプでいっぱいカードやくじ引きの景品を学生に自慢げに見せる姿が見られた。このことから、それぞれに活動を楽しんでおり、目的を達成することができたと感じた。

前期ホール班の活動では低学年の参加が多い傾向にあり、活動によっては未就学児を含め低学年から高学年と学年の差が大きかった。幅広い学年の子どもたちとふれあうことができるのはホール班の特徴であり、参加する子どもたち全員が楽しめる活動を作るため、企画の段階から様々なことを考慮し、活動の際はそれぞれの子どもに合った対応ができるよう心がけた。これからも多くの子どもたちに楽しんでもらえるように努力していきたい。



2019年度 後期五福ホール班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 加藤 択 都

後期ホール班は、「居場所作り」という年間目標のもと、活動の企画・運営を行った。後期ホール班では、10月・12月・1月・2月の計4回の活動を行った。今回は、10月の活動を報告する。

10月の活動「ちぎってペタペタかざりつけ～ハロウィンを盛り上げよう～」では、折り紙を使ったちぎり絵の工作活動を行った。この活動では、「自信作を作って達成感を味わおう」を目的として設定した。さらに、活動を工作前・工作中・工作後の3つの段階に分け、工作前では、工作に意欲的に取り組もうとする姿、工作中では、工夫を詰め込む姿、工作後では、自分の頑張りや作品の出来などに満足する姿というように、それぞれの段階で見たい姿を考えた。このように、段階を踏んでいくことで、結果として自信作を作ることができ、達成感を味わうことができると考えた。

ちぎり絵のイメージを持って意欲的に取り組んでももらうための支援として、導入中に子どもたちの前で見本を提示した。また、工夫を詰め込んでももらうための支援として、見本とその見本を作る際に工夫したことをまとめた模造紙を壁に提示し、工作中にも子どもたちが確認できるようにした。さらに、作品に愛着を持つことでより活動に満足してもらうために、自分の作品に名前をつけさせたり、ボードを用いながら工夫やこだわりを聞いたりした。結果として多くの子どもが意欲的に工作に取り組み、学生に褒められて喜んだり、自分の作品を学生や他の子どもに自慢したりするなど、満足している様子が見られた。

後期ホール班では、例えば、10月のちぎり絵の活動で用意していたビーズやスパンコールをきれいに並べて遊ぶ姿、12月のレクの活動で飽きた子対策として用意していたパズルで遊ぶ姿なども見られた。これらは本来見たい姿ではないものの、その子なりに楽しんでいる様子が見られた。このように積極的に活動に参加する子だけでなく、活動から逸れてしまう子も楽しんでいたことから、ホール班の年間目標である「居場所作り」は達成できたと言っていいのではないかと考える。この「居場所作り」はホール班の強みでもあると思うので今後も継続し、より深めていきたい。



2019年度 五福ホール班 活動報告

前期班長 砂原 文恵
後期班長 加藤 択都

五福ホール班年間目標 『居場所作り』

活動に参加してくれた子どもたち全員が
その子なりの楽しさを見つけられるような
居場所を作ろう

今年度の解釈

積極的な子

積極的でない子

他の事に
興味を持つ子

楽しい

▶今期ホール班の動向

低学年の参加の増加

高学年への支援が薄くなる

支援の充実

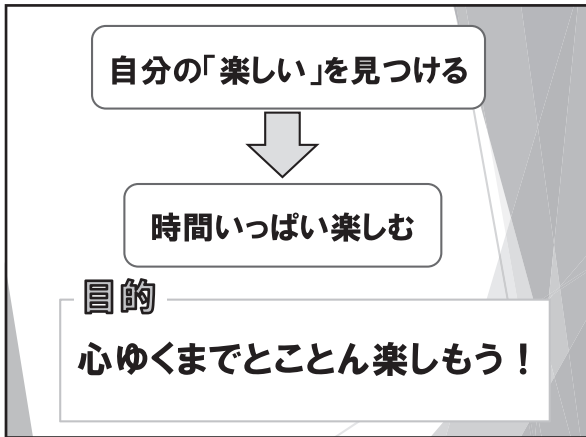
前期活動一覧

活動月	活動名
6月	めざせ！世界一の自動車工場
7月	仲直り大作戦！ ～おりひめの愛を取り戻せ！～
8月	みんなでわくわく夏祭り

▶目的を考えるにあたって

- ・同じブースに何度も挑戦する
- ・色々なブースを回る

楽しみ方はそれぞれ



▶行ったブース

射的

輪投げ


魚釣り

お面作り



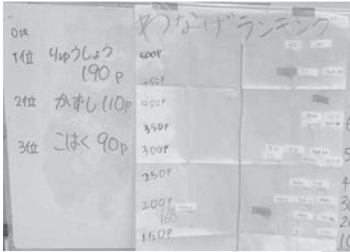
▶射的ブースの支援について

距離によるレベルの設定 → ・何度も挑戦する姿
・的を倒せて喜ぶ姿



▶輪投げブースの支援について

ランキング表の設置 → 得点を越えようとする姿



0位		500P
1位	4pうしよ	450P
	(90P)	
2位	かおし	400P
	110P	350P
3位	こはく	300P
	90P	250P
		200P
		150P
		100P

▶ムービーの注目点

・射的ブース

① 的からの距離を変えることで、より高いレベルに挑戦する姿

② 失敗しても諦めない姿

▶ムービーの注目点

・輪投げブース

① 遠くにある、より点数が高い的に何度も挑戦する姿

② 輪投げに成功して喜ぶ姿

▶8月活動を通して

- ・たくさんの的を倒す姿
- ・ランキング上位を目指す姿
- ・イメージ通りに工作をする姿



楽しむ

後期活動一覧

活動月	活動名
10月	ちぎってベタベタかざりつけ ～ハロウィンを盛り上げよう～
12月	サンタ王におれはなる サンタリンピック2019
1月	おいでよ！五福タウン
2月	福はうち！鬼もうち！ ～チョコチョコ鬼のお面づくり～

工作前 工作中 工作後

意欲的

工夫

満足



目的

自信作を作って達成感を味わおう

目的

自信作を作って達成感を味わおう

意欲的に取り組むための支援

工夫を詰め込むための支援

自分の作品に満足するための支援

▶意欲的に取り組むための支援

導入中に見本を提示



意欲的に工作に取り組む姿



▶工夫を詰め込むための支援

見本とその工夫を提示

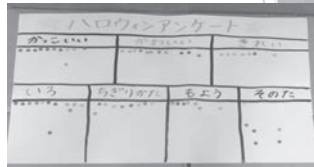


アイデアが浮かばないときにヒントにする姿



▶自分の作品に満足するための支援

- ①作品に名前をつける
- ②ボードの準備



イメージを再認識して愛着を持つ姿

▶ムービーの注目点

《作品完成後》

- ▶自分の作品のイメージと工夫をボードから選ぶ姿

▶10月の活動を通して

- ・学生に具体的に褒められて喜ぶ姿
- ・自分の作品に愛着を持つ姿
- ・自分の作品を自慢する姿



達成感を味わう

▶年間目標「居場所作り」

積極的な子

- ・活動に取り組み楽しむ姿
- ・次の活動を楽しみにする姿

積極的でない子 他の事に興味を持つ子

- ・支援によって活動に興味を持ったり、自分なりに楽しんだりする姿

ご清聴ありがとうございました。



2019年度 前期大江プランナー班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 松本 星也

大江プランナーは『主体性』と『協調性』を育て、日常生活に活かすことができることを年間目標に活動を行った。活動の中で、会議や活動に意欲的に参加する「自主性」、自分の意見を持ち、自分の考えで行動する「発信」、相手の意見を大切にし、周りを見て行動する「受信」を段階的に身に付けることで『主体性』を育て、プランナー同士で「仲良し」になること、「思いやり」を持つことを段階的に支援することで『協調性』の高まりを目指した。今年度は、小学4～6年生のプランナー18名と共に活動し、前期は6月に開講式、7月にプランナー合宿、8月に夏活動を行った。

開講式では「プランナーを知ろう」を目的とした。プランナー活動で行うことについて説明したり、プランナー全員でレクリエーションをしたりすることで、これからの活動のイメージを膨らませ、仲間と一緒に活動することを楽しみにするプランナーの姿を見ることができた。

プランナー合宿では「広げようプランナーの輪」を目的とした。会議で活発に意見を交わすための「自主性」を身に付けるために、相手の話を静かに聞くことや、話す相手に体を向けることなどを会議のポイントとしてプランナーに提示しながら会議を行った。会議を重ねていくたびに、プランナーは聞く姿勢を身に付けていき、充実した会議をすることができた。また、プランナー全員で楽しむことができるレクリエーションや班対抗のレクリエーションを行うことで、プランナーの仲がより深まり、『協調性』の最初の段階である「仲良し」も達成することができた。

夏活動ではブースに分かれてレク活動を行った。会議では、参加する小学校低学年のお客さんのことを考えながらルールや説明の仕方などを考えることができていた。本番では「協力して楽しい夏活動にしよう」を目的に、プランナー一人一人がおもてなしを行い、班のプランナーと協力する姿が見られた。

前期の活動を通して、プランナーの仲は深まり、会議や活動では積極的に取り組むプランナーの姿が見られた。これからは学生が促したり、声かけしたりすることなく、プランナーが自分で考えて思いやりを持ちながら活動できるような支援を行いたい。



2019年度 後期大江プランナー班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 内野 大也

秋会議では、話し合いを円滑に進めるために意識することを3つ記した“話し方のポイントシート”というものを提示し、『発信』『思いやり』を育てるための支援とした。前期で行った“聞き方のポイントシート”による支援も並行して行ったことで、会議の進め方を理解し、自分の意見を言うだけでなく、他人の意見も尊重する姿が見られ、話し合いが円滑に進むようになった。また、会議の話し合い、レクを通して、休み時間などでも、プランナー間のコミュニケーションが盛んになっていた。秋活動では、6つの班に分かれ、モンブランを作る活動を企画した。会議によって決まった自分の役割を、しっかりと把握した状態で本番に臨むことができていた。また、各班におもてなしを考えてもらい、調理器具の扱いやお客さんへの調理工程の説明の仕方などについて、各班違うおもてなしを行っていたが、どの班も参加者への配慮が行き届いており、良いおもてなしが行えていた。

冬会議では、プランナーに司会、書記、発表、タイムキーパーの役割を与えて会議を行った。それまでは学生がこれらの役割を担っており、役割を与えることで『受信』『思いやり』を育てる支援とした。学生の介入が大きく減ったことにより、さらに会議での発言が活発になり“自分たちで会議を進めた”という実感が湧き、最終的にプランナーの成長に大きく作用した。また、声掛けを行わずとも、参加者のことを考えた発言が出てくるようになっていた。冬活動では、4つの班に分かれ、ウォークラリーで行うレクを企画した。本番では、参加者に合わせて自分から行動をする姿、違う班同士でも協力し、参加者を楽しませようとする姿が見られ、参加者を引っ張るリーダーとして振る舞うことができていた。

1年間の活動を通して、『主体性』については、会議時の“他人の発言を踏まえた上で発言する姿”活動時の“参加者に合わせて対応する姿”などが見られるようになり、『協調性』については、“会議や活動で同じ目標の中、協力する姿”“会議や活動以外の場面でも関わりあう姿”が見られた。冬活動の際は、プランナー同士、プランナーと学生の間に良い関係性が出来上がり、個人差はあったものの、お互いに高めあっていくことができていた。

1年間で大きな成長を遂げてくれたプランナーには、この1年間で学んだことを忘れずに、様々な場面において活躍してくれることを願う。




2019年度
大江プランナー班
▶ 活動報告
前期班長 松本 星也
後期班長 内野 大也

プランナー班に
ついて

プランナー

活動を企画・運営する
小学生



活動の種類

会議

活動の
企画



プレ・本番

活動の
運営



開講式

夏活動

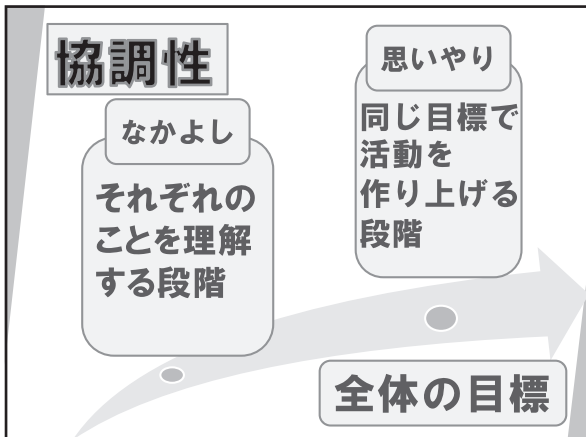
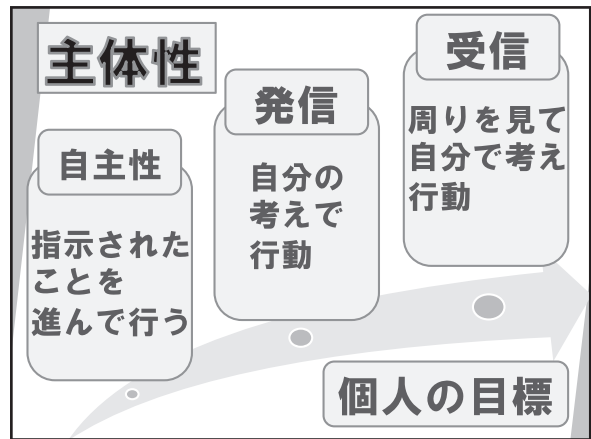
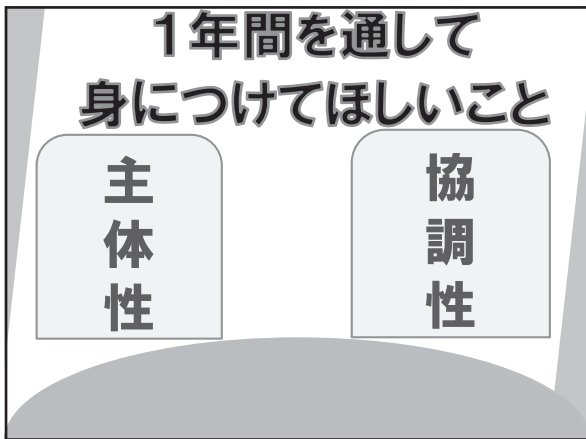
秋活動

冬活動

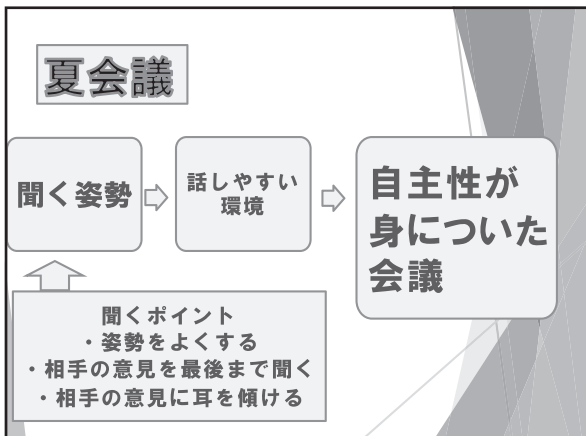
開講式

1年間の流れ

年間目標
について

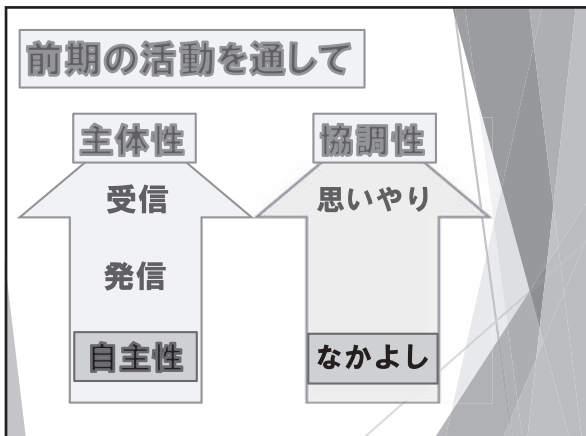


夏活動について

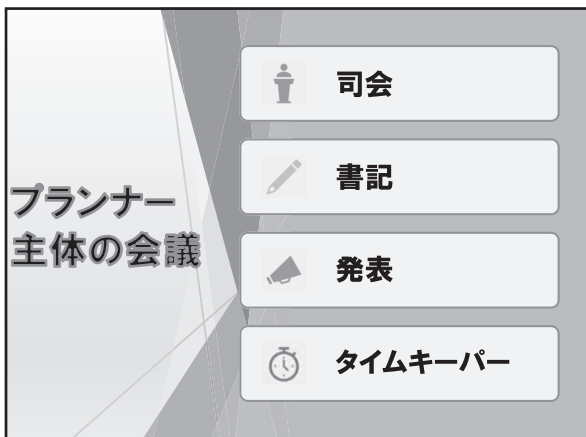


夏会議の支援

支援	結果
・「聞く」ポイントシートを使用した	・「聞く」ポイントシートを確認しながら会議ができていた。
・「話し手」を使用して会議を行ったこと。	・話している人が明確になった。 ・誰かが話している途中に遮って話そうとすることもなくなった。



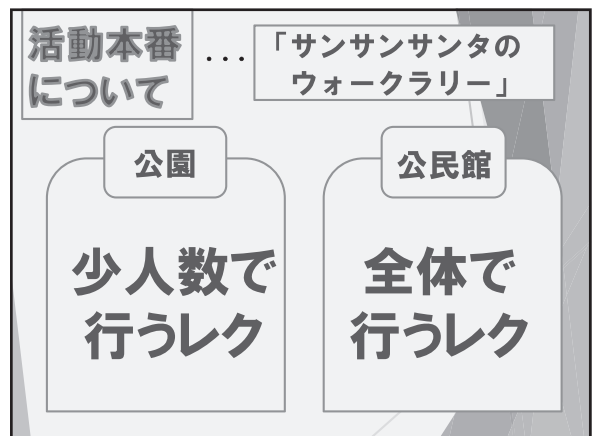
冬会議について

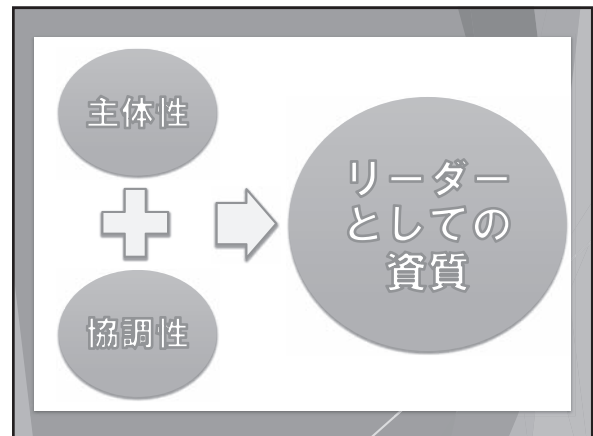
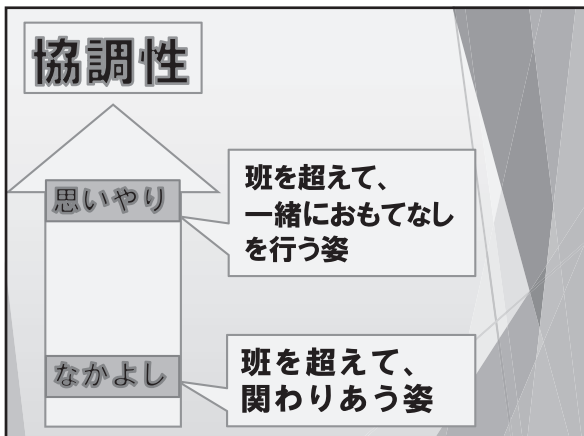
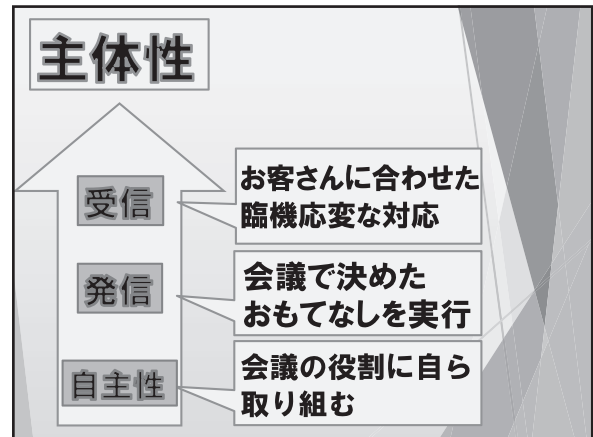
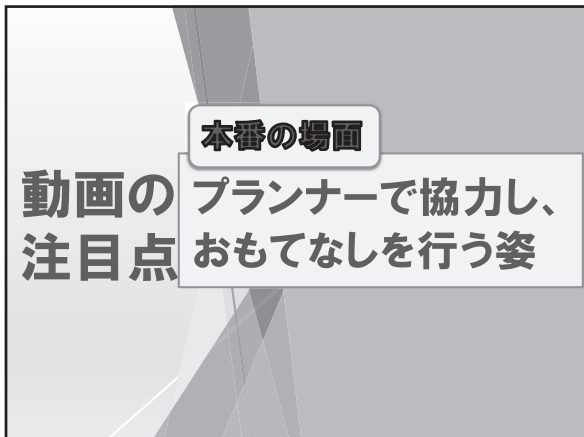
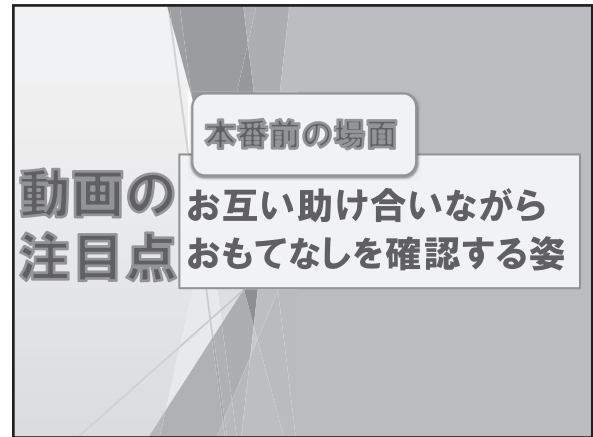
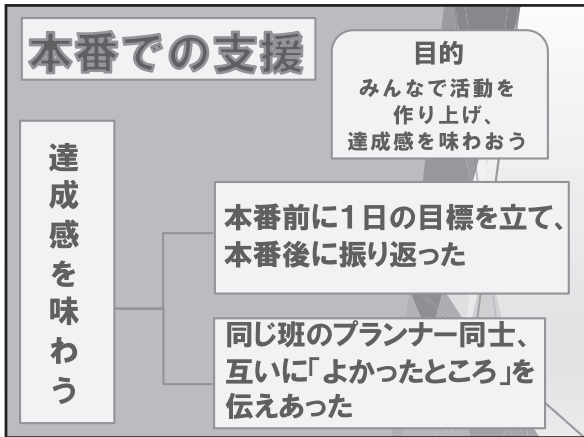


主体的な会議の支援

支援	結果
“役割のコツ”シートを1人1人に配布	<ul style="list-style-type: none"> 役割の重要性に気づく姿 役割を確認しながら会議を進める姿
会議前に役割の目標を1人1人立てる（会議後振り返り）	<ul style="list-style-type: none"> 目標を振り返りながら会議を進める姿 振り返り、次回につなげる姿

冬活動本番について







2019年度 前期託麻プランナー班 活動報告書

〈前期を振り返って〉

班長 2年 野田 大介

託麻プランナー班では年間目標を「尊重」とした。私たちは「尊重」を、「自分の意見をしっかり持ちつつ、相手の意見を受け止める」と定義した。今年度は、小学4～6年生のプランナー16名と共に活動を行った。前期託麻プランナー班では、6月に「開講式」、「プランナー合宿」、8月に「夏活動」を行った。

開講式では「プランナー同士で関わりあう」を目的として、プランナーの内容を学ぶかるたやネームトレインを行った。プランナー同士がお互いの名前を覚え、一緒に活動することができた。次第に緊張がほぐれて笑顔も見られるようになり、今後のプランナー活動の地盤となった。

今年は、豊野少年自然の家でプランナー合宿を行い、「多くのプランナーと繋がり、仲良しさんをつくる」という目的を設定した。夏会議で活発に意見が言えるような関係を築くために、会議班やレクリエーションの班、ナイトハイクの班をその都度変えて多くのプランナーと交流できるようにした。それにより、異なる小学校や学年を超えて仲良く活動する姿が見られた。また今回の合宿では、これから行う会議の練習として「年間のあゆみの名前決め」を議題に会議を行った。初めての会議なので、なかなか意見を発表できないプランナーもいた。

「夏活動」では「夏祭り」をテーマとして、班ごとにブースに分かれ、レクリエーションや工作を行った。会議では「お約束を意識しながら会議をする」を目的に設定した。お約束とは「尊重」を達成するための支援で、プランナーに会議で守ってほしい項目のことである。最初は自分たちがやりたい企画を提案するプランナーが多かったが、お約束を意識しながら会議を重ねたことで、お客さんのことを思いやった意見や楽しい企画を考える姿を見ることができた。さらに、プレ、本番ではプランナーがお客さんに丁寧に説明をしたり、工作の補助をしたりしている姿が見られた。

これからもプランナーの子どもたちが楽しみつつ、プランナーとしての役割もしっかり果たせるような支援を考えていくことが大事だと思った。



2019年度 後期託麻プランナー班 活動報告書

〈後期を振り返って〉

班長 2年 市川博文

後期の託麻プランナー班は、自分の意見をしっかり持ち、相手の意見を受けとめるという前期の目標に、「会議で決めたことを実行する」を加えて、『尊重』を後期の目標として、10月に秋活動、12月に冬活動、2月に閉講式の計3回活動を行った。

秋活動では、カップケーキ作りとレクリエーションを行った。会議で行った支援は、自分たちで話し合いを進める力を付けさせたいと思い、「役割の意義を理解し、協力して会議を進める」という目的を設定した。夏活動に用いた「お約束」をプランナーの成長に合わせ、よりプランナーたちが会議をしやすくするために改良した。さらに、司会・書記・時間係（タイムキーパー）・発表係の4つの係を設け、プランナーが自分たちで会議を進行するために、全員が役割を担うようにした。そして、それぞれの仕事や会議中に使う言葉をまとめたカードを持たせるというものを行った。その結果、個々が役割に責任を持ち、協力して会議を進める姿が見られた。本番では、「プランナーとしての自覚を持って行動する」という目的を設定した。プランナーがお客さんの意見を『尊重』して、お客さんにカップケーキの作り方を教える姿や、トッピングを手伝う姿が見られた。

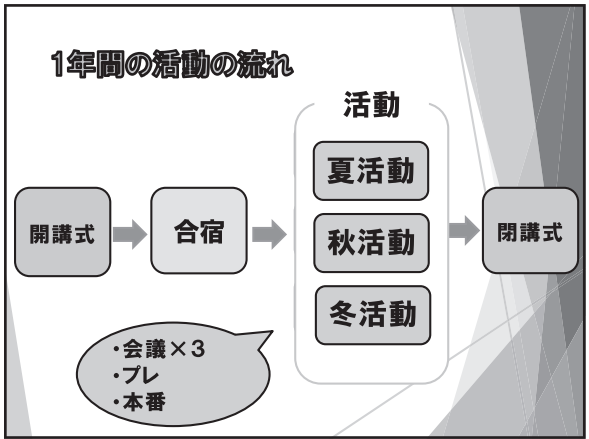
冬活動では、クリスマスリースとスノードーム作りを行った。会議では、「プランナーが中心となって会議する」という目的を設定した。秋会議に引き続き、冬からはプランナーの主体性を伸ばしたいと考え、プランナーが助けを求めたときに学生が助言を行うというスタンスで会議を行った。プランナーたちは、夏・秋のおもてなしの経験を活かして、お客さんの姿を想像しながら、話し合いを進める姿が見られた。本番では、「全員で協力しておもてなしをする」を目的とした。プランナー全員が、活動の流れやリースとスノードームの作り方を、しっかり頭に入れていたため、学生に質問することなく、お客さんに作品のイメージを聞き、飾り付けを積極的に手伝う姿が多く見られた。

1年間の活動を通して、プランナー自身で会議を進めたり、会議で決めたことを本番で実行したりすることで、他者を『尊重』する姿が見られるようになった。この1年間の経験を活かして、プランナーたちが、学校や日常生活の中で『尊重』する心を磨いていくことを願う。



2019年度 託麻プランナー 活動報告

前期班長 野田大介
後期班長 市川博文

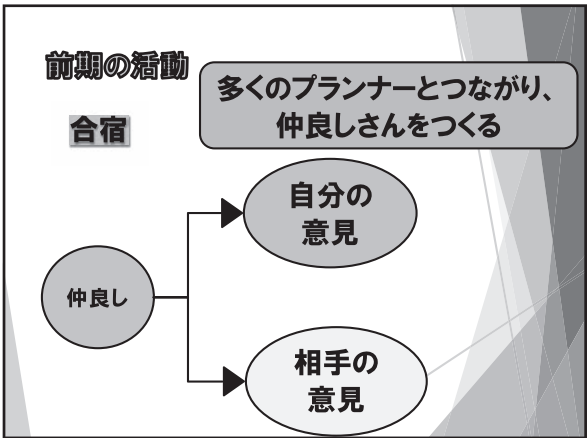
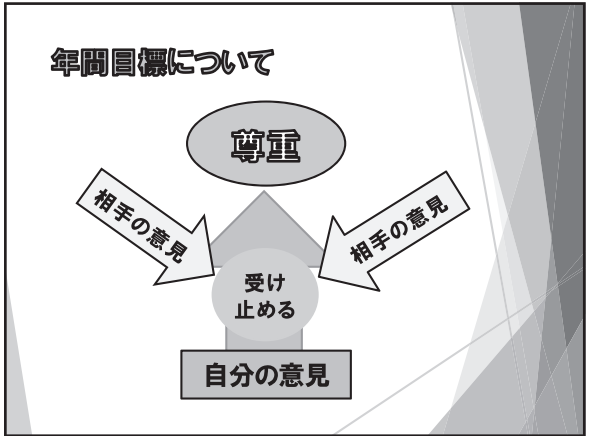


年間目標について

託麻プランナー班の年間目標

尊重

「自分の意見をしっかり持ちつつ、
相手の意見を受け止める」

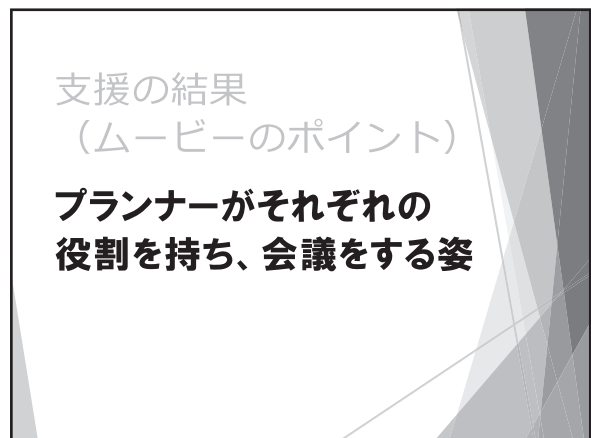
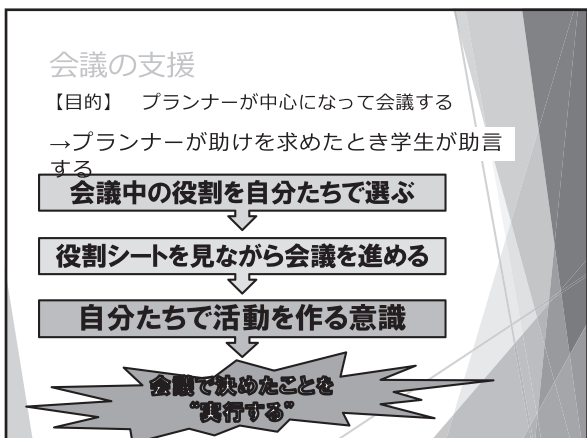
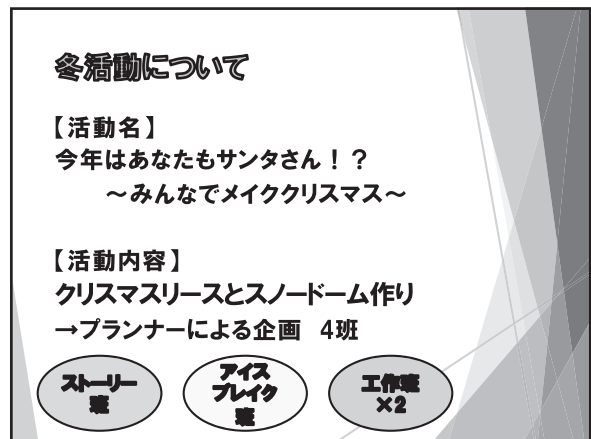
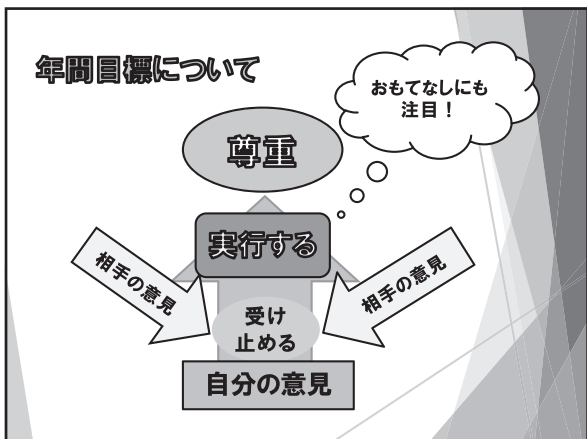
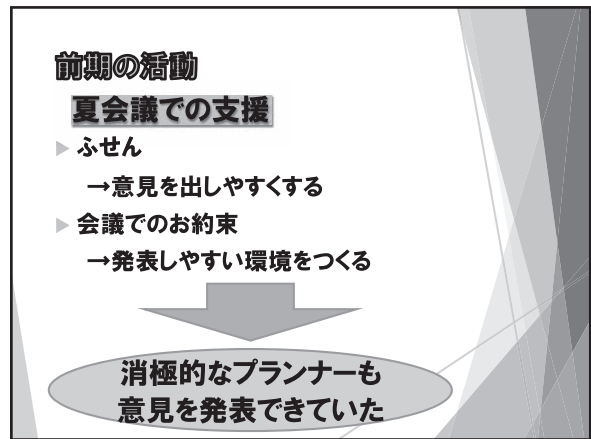
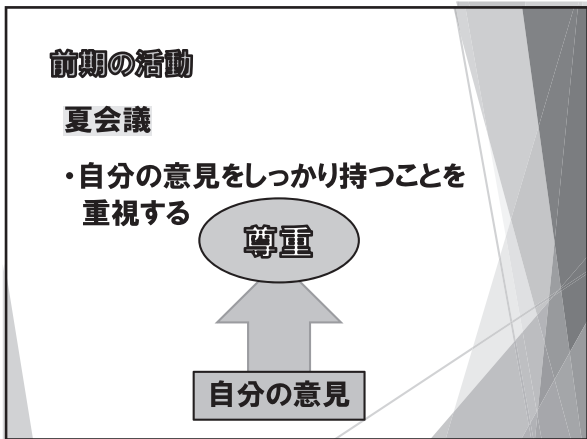


前期の活動

合宿での支援

- ▶ レクリエーション
→ 多くのプランナーと関わる
- ▶ ナイトハイク
→ 班編成を変える

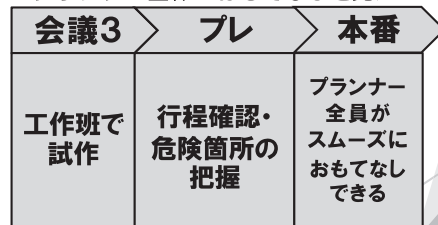
学年や班を超えて
楽しく活動していた



活動の支援

【目的】 全員で協力しておもてなしをする

→プランナー主体のおもてなしを見た

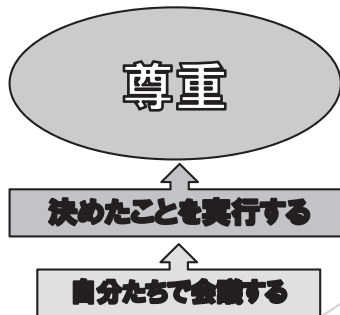


支援の結果

(ムービーのポイント)

学生の手を借りることなく、主体的におもてなしをする姿

1年間を通して



ご清聴ありがとうございました



2019 年度(令和元年度)
熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会開催要項

[午前の部：シンポジウム]

1. 開会挨拶

熊本大学教育学部長 八幡 英幸

2. メイクフレンズ活動の実施報告

(1) メイクフレンズ活動全体の振り返り

メイクフレンズ船長 砂原 文恵

(2) 班活動の振り返りとコメント

メイクフレンズ「秋津・東部単発班」班長	(前期) 黒田 力
	(後期) 平井 美羽
メイクフレンズ「中央単発班」班長	(前期) 平田 宜江
	(後期) 平田 成美
メイクフレンズ「五福ホール班」班長	(前期) 砂原 文恵
	(後期) 加藤 択都
メイクフレンズ「大江プランナー班」班長	(前期) 松本 星也
	(後期) 内野 大也
メイクフレンズ「託麻プランナー班」班長	(前期) 野田 大介
	(後期) 市川 博文

熊本市秋津公民館社会教育主事	赤木 一延
熊本市東部公民館社会教育主事	深迫 裕樹
熊本市中央公民館社会教育主事	田尻 俊治
熊本市五福公民館社会教育主事	永山 健
熊本市大江公民館社会教育主事	東田 明洋
熊本市託麻公民館社会教育主事	原田 正仁

3. 連携協力機関関係者からのコメント

熊本市市民局市民生活部生涯学習課社会教育主事 川口 雅嗣

休憩

4. 特別講演

熊本県教育庁教育総務局社会教育課審議員 須恵 勝幸

5. 修了証授与並びに閉会挨拶

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長 干川 隆

[昼食]

[午後の部：学生自主企画分科会]

6. 学生自主企画分科会

開会挨拶

分科会実行委員長
川元 大夢

【分科会における目的と目標】

今回の自主企画分科会の目的は「メイフレへの理解を深める」である。船員それぞれにメイクフレンズへかけられる時間や思いに差がある中、全員が同じだけの熱意をもって取り組むことは困難である。その中で、子どものためのよりよい活動を行うという一つの目標に向かうために、意見を共有して、メイフレを理解し、それぞれがメイフレとの関わり方を考えてほしいと思い、この目的を設定した。よって、目標を「様々な人のメイフレに対する思いを聞いて、メイフレへの考えを自分の中で持とう」とした。

開会式（15分）

第一部意見交換（80分）

休憩（15分）

第二部意見交換（60分）

アンケート記入（20分）

閉会式（5分）